

平成 29 年度 認知症看護対応力向上研修【九州会場】 報告

開催日時 平成 29 年 10 月 28 日(土)、29 日(日)9:00~16:40

会場 一般財団法人平成紫川会 小倉記念病院 講堂
(北九州市小倉北区)

受講者数 96 人 受講証明書発行数

担当代表 三重野英子 (大分大学)



アンケート結果 (回収数 94 人)

1. 回答者の概要

属性：平均年齢 41.9 歳、平均看護師経験年数 18.7 年。職位は、スタッフ看護師 55 人(58.5%)、主任・副師長・係長 16 人(17.0%)、師長・課長 17 人(18.1%)。

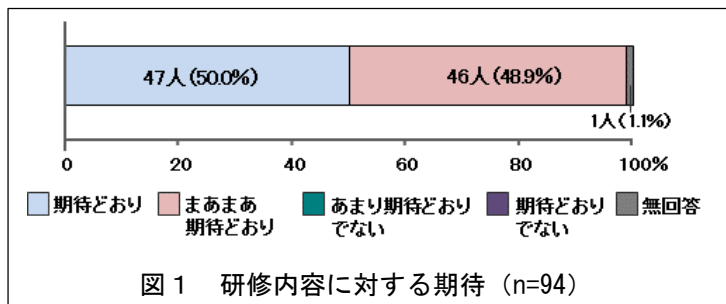
所属：病院の種類は、一般病院が 90 人(95.7%)。病床の種類は、一般病床 64 人(68.1%)、療養病床 8 人(8.5%)、地域包括ケア病棟 7 人(7.1%)。

応募：病院・看護部からの指示・指名 50 人(53.2%)、病院・看護部からの公募があって応募 14 人(14.9%)、自主的に応募 28 人(29.8%)。

費用：病院全額負担 49 人(52.1%)、一部自己負担 12 人(12.8%)、全額自費負担 27 人(28.7%)。

2. 研修会全体について

1) 研修内容に対する期待



◆日頃の認知症看護の振り返り

- ・日頃から接し方について悩むことが多かったのととても勉強になった。
- ・日頃の振り返りをすると同時に即実行できる。等

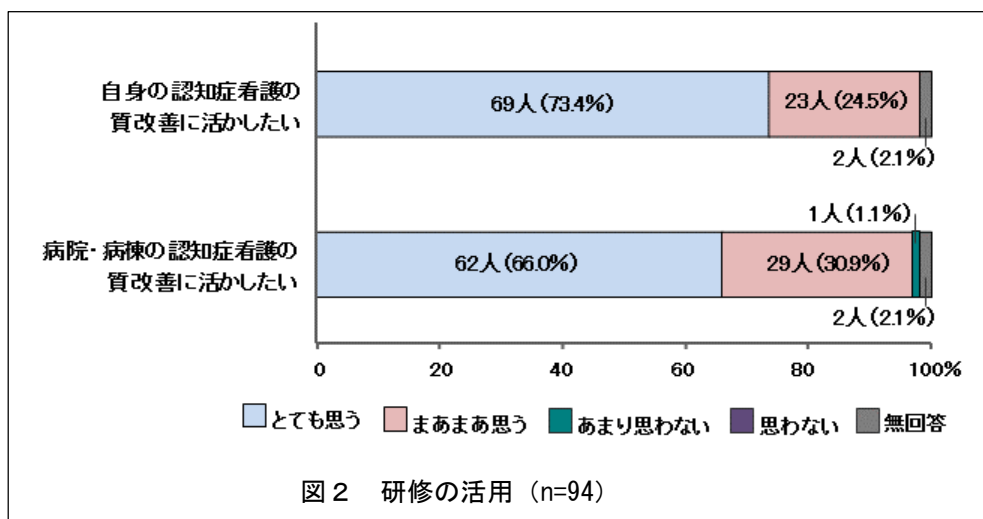
◆演習での意見交換による気づき

- ・ワークを取り入れた内容で、他の人の意見や考え方で気づきがある。
- ・演習もあり現場で活用できる内容だった。等

◆知識の拡がり・深まり

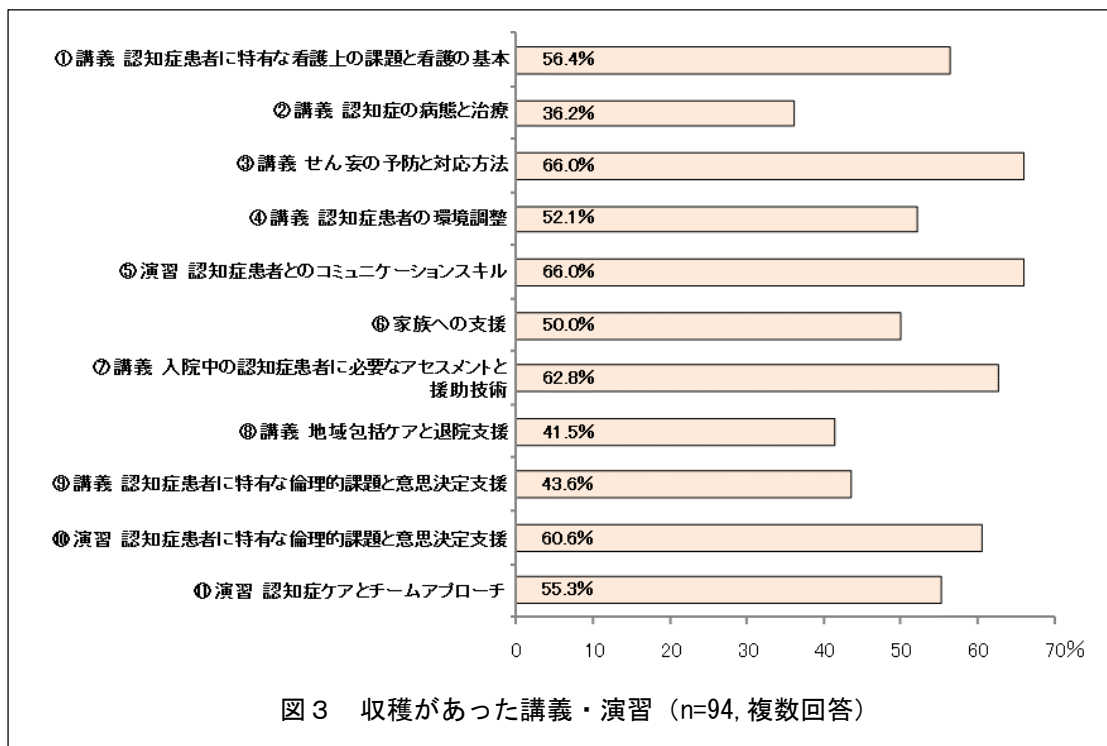
- ・認知症の基礎から具体的な関わり方を学ぶことができた。等

2) 研修の活用



3. 研修内容について

1) 自分にとって収穫があった講義・演習



2) 追加してほしい内容・改善点

◆より具体的なアセスメントやケアの方法

- ・回想法、バリデーション、ユマニチュード、パーソンセンタードケア、リアリティオリエンテーション、スケール評価等について、現場で活用できるような詳しい講義
- ・具体的なコミュニケーション技術
- ・問題の抽出、分析方法、アセスメント能力が低下している。退院してからどのようなことが問題ですかとよく言われるがそのイメージがつかない。等

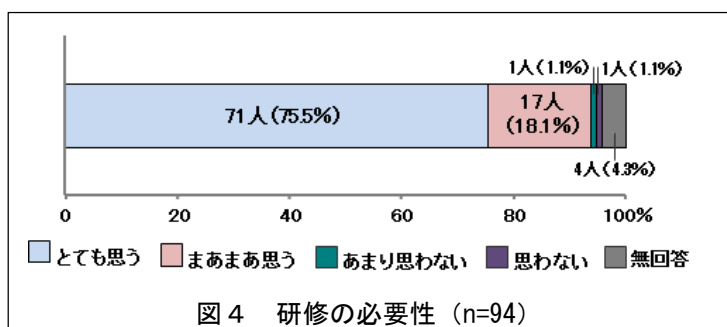
◆グループワーク

- ・グループワークで考える時間が短いので、もう少し長く時間をとってほしい。
- ・演習は苦手です。できれば減らしてほしいです。
- ・何分考えて何分ディスカッションするなど決めて進めてほしい。等

◆その他

- ・質問する時間がほしい。
- ・認知症ケア加算の内容
- ・病態と治療をもう少しゆっくり学びたい。等

3) このような研修の必要性



◆認知症看護を振り返る機会

- ・自己の振り返りを行うことで基本に戻る。
- ・患者理解は大切だし、自身の日頃の対応の気づきとなる。等

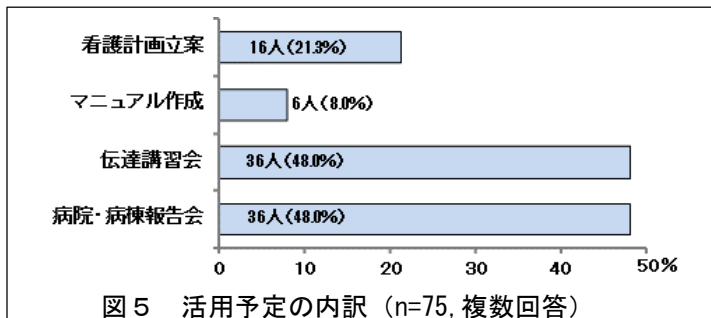
◆個人・チームの知識・看護力不足の改善

- ・全スタッフが知識の共有、統一ができる。
- ・一人でケアはできないので。また、認知症の方に対する抵抗感は全体をみるとまだまだ強いと思うので。等

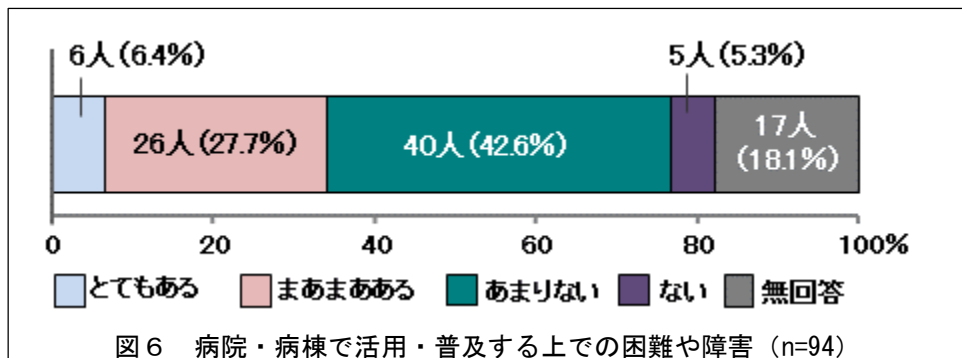
4. 研修会後の病院・病棟での活用

1) 活用予定

・研修会後、病院・病棟で活用予定が「ある」と回答した受講者は75人(79.8%)。



2) 学習した内容を病院・病棟で活用・普及する上での困難や障害



〔困難・障害の内容: 「とてもある」「まあまあある」と回答した32人中、28人が記述〕

◆自分が適切に伝えられるか不安

・今回学んだ内容を全て伝えられるか不安、病院内で研修に参加している人数が少なく普及できるかわからない。等

◆マンパワー・時間の不足、多忙感

・多忙、マンパワー不足、自分の技術不足、認知症の知識不足によるチームでの看護連携
・急性期看護で入退院がはげしく、種々のカンファレンスも思うようになされていない現状がある。時間の確保が難しい。等

◆継続した教育によるスタッフ全体の知識の習得

・スタッフの学習、教育がまだまだだと思っている。少しずつ事例を通し全員で学んでいきたい。等

5. 感想・意見

- ・普段の看護について多くのことを気づかされました。拘束を当たり前としない看護に徹し取り組んでいきたい。
- ・認知症の方の心身の状態をとらえる重要性とその難しさを再認識しました。看護師の観察力とアセスメントの力、その看護師の看護観(人間観、健康観 etc.) がケアに大きく影響すると感じ、自分のかかわった方のケアを振り返って看護者としてのあり方を考え続けていきたいと思いました。
- ・実例を含めた研修、他の病院のスタッフと話すことができたのでよかったです。
- ・もっとたくさんの人に受けてほしい(他のスタッフにおすすめてほしい)ので是非参加費を下げてください。等

九州会場は、台風22号の進路に気をもみましたが、予定通り開催することができました。受講者の皆様、2日間本当にお疲れさまでした。今回、講師陣としては、具体的な実践例を盛り込んだ講義、DVDや事例等を用いた効果的な演習を心がけプログラムをすすめて参りましたが、受講者の皆様がとても熱心に参加してくださり、我々も大いに刺激を受けました。この研修が、皆様それぞれの認知症看護のスキルアップ、病院・病棟全体での組織的な認知症看護の質向上につながれば幸いです。末筆ながら、研修会場を提供してくださいました小倉記念病院長永田泉様に心より御礼を申し上げます。

担代表 三重野英子 (大分大学)